

平和を創り出すこと

敗戦から 66 年がたち、太平洋戦争のことは私達の記憶のなかでもかなり風化しつつあります。しかし、機会あるごとにしっかりと振り返り、平和の大切さを心に刻み、平和を創り出すための努力しなければと思います。

先日、卒業生の方からお手紙をいただきました、旧 54 回生で、現在 80 歳過ぎの方です。遺愛のことを本当に懐かしく思っておられるのですが、その方が遺愛にいらした 4 年間は戦争の真っ只中で、現在の生徒には考えることのできないほどの過酷な時代でした。昭和 20 年の 5 月には援農にも借り出されたそうです。

実は遺愛からも、戦時中、多くの生徒が援農に行っていました。記録によると昭和 19 年 6 月 23 日から昭和 20 年 7 月 4 日までの約 1 年の間に、6 回の援農が行われ、延べ 587 名の遺愛生が借り出されました。遠くは稚内近くの天塩・留萌で、天塩の幌延には延べ 80 名、豊富には延べ 83 名、羽幌には延べ 120 名の遺愛生が 20 時間汽車に揺られて、行きました。全員が行ったわけではなく、行く 3 日前に突然、指名されて行くことになったそうです。指名されれば拒否はできません。援農先では、お風呂は 1 週間に 1 回、のみ、しらみに悩まされ、十分な食事も与えられない中でのきつい農作業だったそうです。遺愛が敵国アメリカのつくった学校ということで嫌がらせも受けたそうです。遠く稚内の近くまで行かせられたのも嫌がらせの一つだったそうです。楽しみにしていた修学旅行もなかったそうです。



宗谷郡徳満村への援農の様子（1945 年 5 月～10 月）
村唯一の小学校に合宿しました。

2011 年 8 月 15 日